

Accuphase

STEREO POWER AMPLIFIER

model P-300X

ステレオ・パワー・アンプリファイヤー

取扱説明書



このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございました。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要な事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内に）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

目 次

特長	2
接続方法	3
各部の名称と動作説明	4
ブリッジ接続	8
ご注意	9
ブロック・ダイアグラム	10
保証特性	11
特性グラフ	12

特長

■ドライブ段に MOS FET を採用したパラレル・プッシュプル出力段

ドライブ段には MOS FET，出力段には広帯域バイポーラ・トランジスタをパラレル・プッシュプルで使用しております。MOS FETドライブにより出力段のバイアス電流が安定し、出力段のエミッター抵抗を取り去りました。その結果、出力トランジスタのバイアスがカットオフされることなく、スイッチングひずみの発生がなくなり、A級アンプに匹敵するひずみの少ないアンプになっております。

■高域特性を大幅に改善したカスコード・プッシュプル・プリドライブ段

MOS FETをドライブする前段は、大電圧と電流が要求される部分で、増幅回路全体の性能を左右する重要なところです。本機では2個のトランジスタを組み合わせてカスコード接続を構成し、電流振り込みの働きと、大振幅増幅の働きをカスコード素子のそれぞれにもたせて優れた高域特性を実現しております。

■カスコード・ブートストラップ差動プッシュプル入力

入力回路は FET で構成したカスコード・ブートストラップ差動プッシュプルです。FET のミラー効果が皆無になり、高域特性が改善され、入力インピーダンスの上昇によるひずみの増加を防止しました。また FET 入力によって入力コンデンサーを取り去り、カラレーションのない音質を得ています。

■DC サーボ方式

本機のように入力コンデンサーも取り去り、完全な直結構成のアンプでは、直流までも増幅してしまい、DC（直流）漏れのプリアンプと併用した場合、スピーカーを破損してしまふこともあります。これを防止するために本機では、DC サーボ・アンプによる直流帰還をかけ、直流を遮断するとともに、DC ドリフトもほぼ完全におさえました。

■2巻線による左右独立型強力電源部

激変するエネルギーをスピーカーに送り出すパワー・アンプの電源部は、アンプのクオリティーが向上するほど重要度も増してきます。十分な供給容量をもっていると同時に、チャンネル間の干渉を皆無にすることが大切です。

本機の電源トランスは左右チャンネルに専用巻線をもち、専用整流器とフィルター回路により、干渉のない強力な電源を構成しています。これによって、音像の定位が向上し、セパレーションも一段と改善されています。

■400Wモノフォニック・パワー・アンプに早変わりするブリッジ回路内蔵

ステレオ・パワー・アンプをモノフォニック・パワー・アンプとして使用できるブリッジ接続回路を内蔵しています。スイッチ一つで簡単に400W（8Ω負荷）モノフォニック・アンプに早変わりします。パワー・アンプによるグレード・アップやサブ・ウーファー・システムに威力を発揮します。

■1dBステップのアッテネーター

入力レベルは-20dBまで1dBステップのディテント式アッテネーターにより正確にコントロールできます。緻密なレベル・セッティングが可能で、特にマルチ・アンプ・システムのレベル合わせ等に便利です。

■ホールド機能付ピーク・レベル・メーター

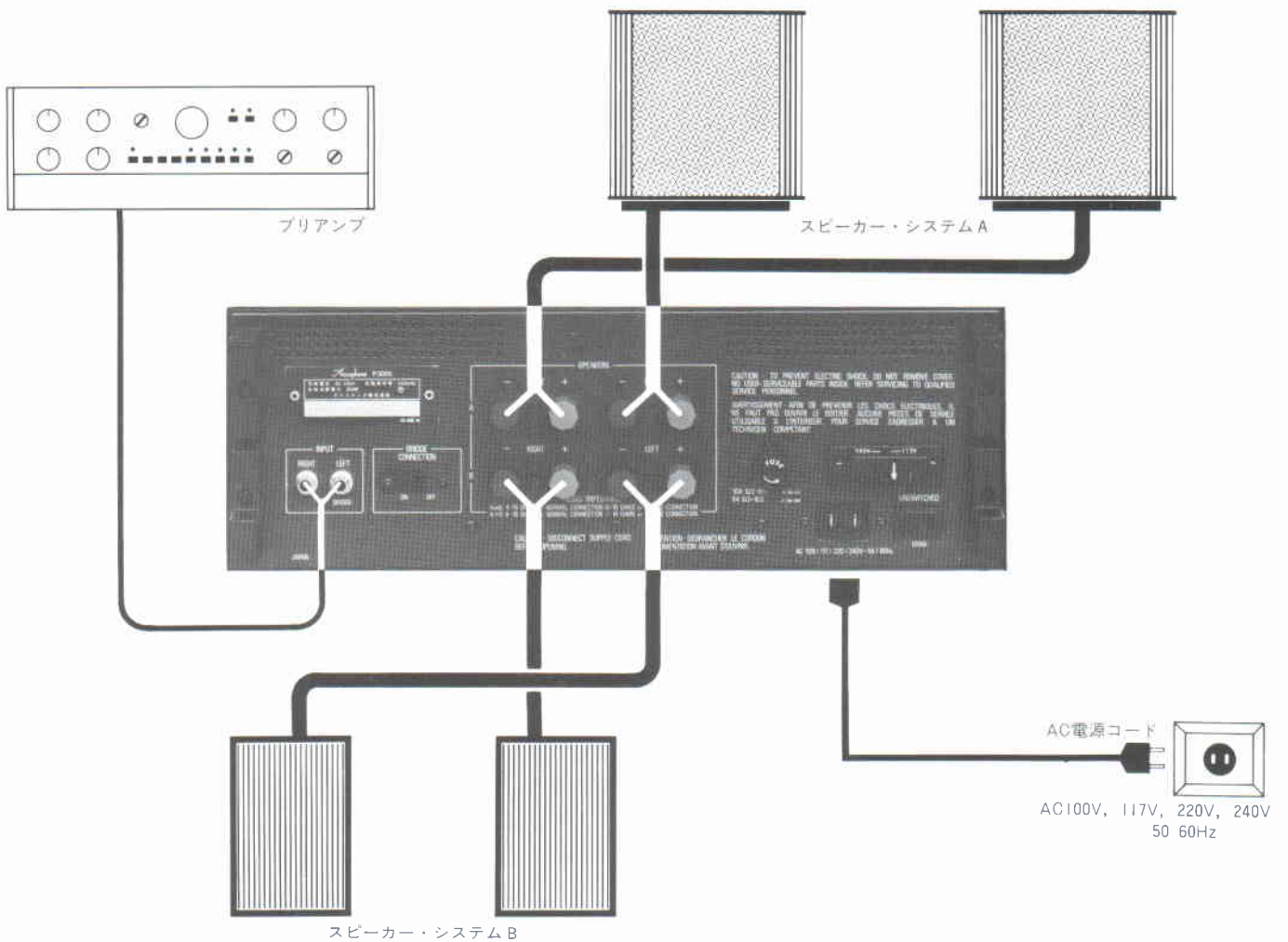
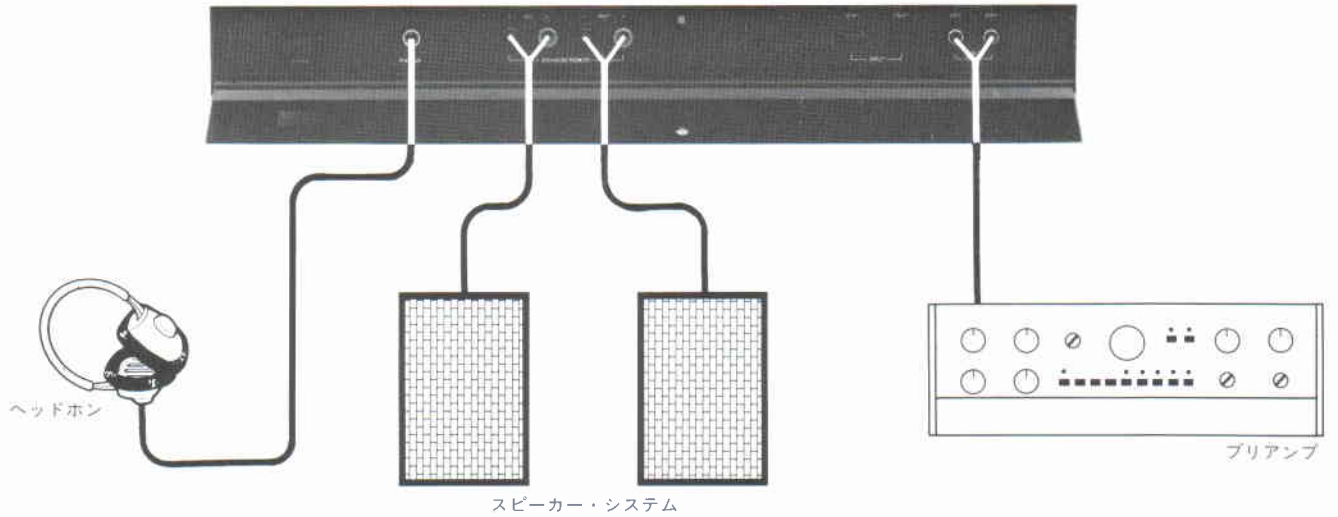
出力計は対数圧縮型ピーク・レベル・メーターでdB目盛とともに、8Ω負荷時の出力を直読できます。またメーター・ファンクション切替スイッチにより音量感にほぼ比例したボリューム・レベルとピーク・レベル指示の切り替えが可能です。更に、ピーク・レベルを一層監視しやすくする「ピーク・ホールド」もでき、3秒間のサンプリング周期でその間のピーク値を保持します。

■豊富な入・出力端子

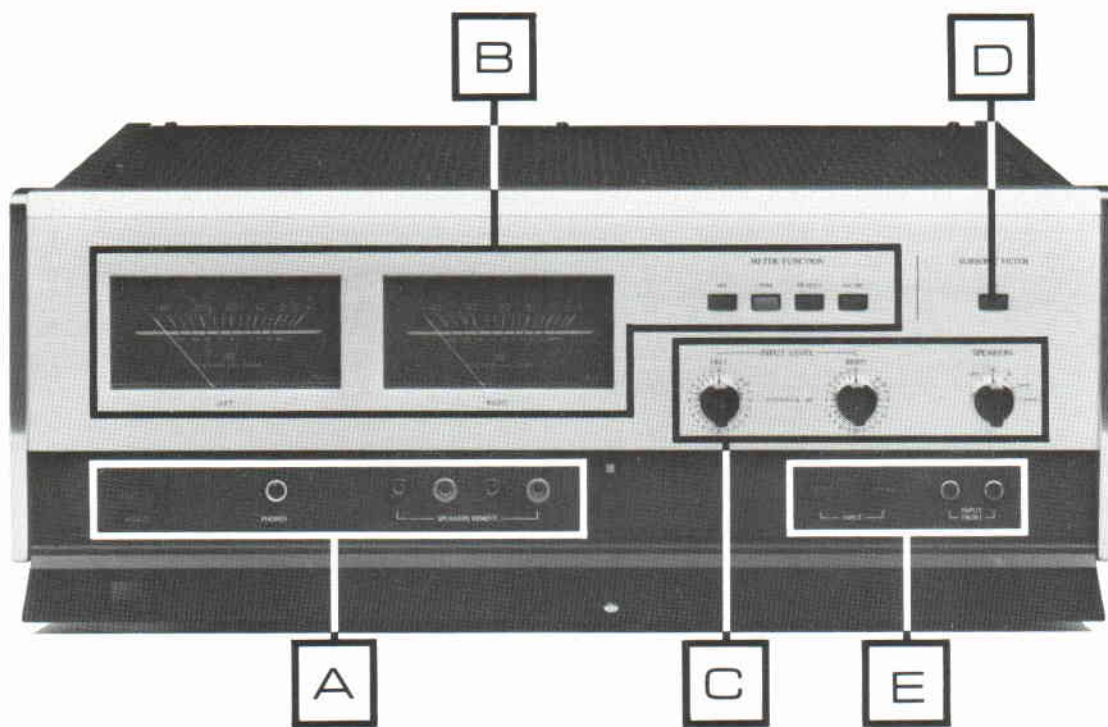
スピーカーの比較試聴やその他の機器テストのために、3組のスピーカーが切り替えられ、入力も2系統となっています。出力端子と入力端子のそれぞれ1系統はフロント・サブパネル内に設けてあります。

表紙の写真はP-300Xをローズウッド・キャビネット
A-8型に収納したものです。

接続方法



各部の名称と動作説明



A POWER PHONES SPEAKERS FRONT

POWER——電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで、約6秒間はミュート回路が動作していますので出力はありません。ミュート回路動作中はパワー・メーターの照明ランプが暗く、解除になると同時に明るく点灯します。

また、電源スイッチをOFFにしてから約30秒後にリレーの音（カチッという音）が聞こえますが、これは正常な動作で、故障ではありません。

PHONES——ヘッドホン・出力ジャック

ステレオ・ヘッドホンで聞くときに、このジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。インピーダンス4～32Ωのヘッドホンをご使用ください。ヘッドホン・プラグを差し込んでも本機の3系統のスピーカー端子の信号は切れませんので、ヘッドホンだけで聞くときには、**C** SPEAKERS スイッチをOFFにしてください。

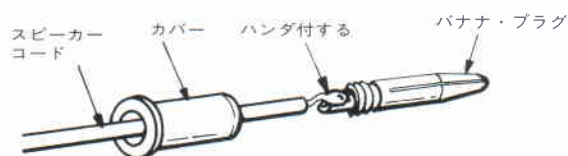
また、“ブリッジ接続”にしてモノフォニック・アンプと

して使用するときには、本機に入力した信号がヘッドホンの左右スピーカーに逆位相で入力されますので注意してください。

SPEAKERS FRONT——フロント側・スピーカー端子

本機の出力をリア・パネル**D**のスピーカー端子と同じように取り出せる大変便利な出力端子です。この端子にスピーカーを接続するときには、付属のバナナ・プラグに下図のように、スピーカー・コードをハンダ付して、この端子に差し込んで**C** SPEAKERS スイッチを“FRONT”にしてください。

ブリッジ接続にしてモノフォニック・アンプとしてご使用のときは、この端子のLEFT(+)とスピーカーのプラス(+), RIGHT(+)とスピーカーのマイナス(-)端子を結線してください。



バナナ・プラグ付コードの作り方



METER FUNCTION POWER LEVEL METER

METER FUNCTION——メーター機能切替スイッチ

《OFF》 このプッシュ・スイッチを押したときは、メーター回路が OFF になりますから、パワー・メーターの指針は振れません。

《PEAK》 赤色の“PEAK”を押したときは、瞬時に変化する音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示します。このプッシュボタンは押し込んでもロックしません。

《PK HOLD》 パワー・メーターの表示する値を読み取りやすくするために約3秒間のサンプリング周期で、その間のピーク値を指針が保持します。ピーク値は約3秒間隔で自動的にリセットされます。

《VOLUME》 このポジションではメーター指針が、実際の音量感に比例した、いわゆるVU計としての動作をします。

POWER LEVEL METER——パワー・レベル・メーター

METER FUNCTIONスイッチでピーク・レベルとボリューム・レベル指示を切り替えてご使用になれます。

“PEAK”レベル指示は、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するような回路になります。したがって瞬時のピーク値を読み取りやすくするために、メーター指針の立上り時間に比べて帰りの時間が遅くなっています。

更に、瞬時のピーク値を一層読み取りやすくするために、METER FUNCTIONスイッチを“PK HOLD”にしますと、約3秒間のサンプリング周期をもつピーク・ホールド回路がピーク値を保持します。ピーク値は約3秒間隔で自動的にリセットされ、その間のピーク値を次々に表示して行きます。

ピーク・レベル指示のときのメーター指針の動きは、レコードなどプログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多くふくまれているものでは聴感上の音量感と多少違った感覚を受けることがあります。この点“VOLUME”レベル指示は、音楽や音声信号の音量感と比例する、VU計と同じような指針の動きをしますので、ピーク・レベルで監視しているときのように、聴感上それほどの音量感がないときにも指針が振れる、というようなことはありません。実際のピーク値は5～8dBプラスした値になりま

す。

メーター・スケールは出力レベルをdBで表示するとともに、8Ω負荷時のワット数が直読できるようになっています。したがって、8Ω負荷のときは、正弦波を加えて0dB=150W、-10dB=15W、-20dB=1.5Wとなります。4Ω負荷のときは、0dB=300Wとして、-10dB=30W、-20dB=3Wというように直読目盛の2倍の値、16Ω負荷のときは、0dB=75W、-10dB=7.5W、-20dB=0.75Wと直読目盛の1/2倍の値が出力パワーとなります。

ブリッジ接続で使用しているときは、LEFT、RIGHT両方のメーターが同一の指示をします。スピーカーに供給されるエネルギーはメーターの指示値の6dBアップ（パワーは4倍）になります。直読目盛の4倍の値が実際の出力です。この値はスピーカーのインピーダンスが8Ωの場合で、16Ωの場合はメーターの指示値の3dBアップ、直読目盛の2倍になります。以上の出力は正弦波を入力したときのこと、音楽や音声信号のようにパルス性の波形や非対称波形が入力された場合には、メーターの左右の指針は同一の指示値を示しません。



INPUT LEVEL SPEAKERS

INPUT LEVEL——入力レベル調整

本機へ入力する信号のレベルを調整するつまみです。いかにすると、LEFT(左)チャンネル、RIGHT(右)チャンネルの出力レベルを調整するもので、右まわして出力が増大します。最大“0”から左へまわして“20”の位置(-20dB減衰)まで1dBステップになっています。通常は最大“0”でご使用ください。マルチ・アンプ・システムにこのアンプをご使用するときなどのレベル調整に有効です。

ブリッジ接続にしたときには、LEFT(左)チャンネル側のつまみでレベル調整をしてください。RIGHT(右)チャンネル側のつまみは無関係になります。

ブリッジ接続に切り替えますと、アンプのゲインが6dB増加します。したがってマルチ・アンプ・システムの中に本機を通常のステレオ・アンプとして使っていたときより6dBだけレベルを下げないと、それ以前のバランスになりませんのでご注意ください。

SPEAKERS——スピーカー切替スイッチ

リア・パネルのスピーカー端子A、B及びフロント側

のサブパネルAスピーカー端子に合計3組のスピーカーを接続することができ、それらを選択するためのスイッチです。

“A”、“B”及び“FRONT”では、それぞれのポジションの1組のスピーカーを選択することができ、“A+B”では2組のスピーカーを同時に鳴らすことができます。

AとBは並列接続になっていますので“A+B”の位置で2組のスピーカーを同時に鳴らすときには、スピーカーのインピーダンスが8Ω以上のものを接続してください。



SUBSONIC FILTER

SUBSONIC FILTER——サブソニック・フィルター

このスイッチは押したときに“ON”となり、再び押すと手前に出てOFFです。

サブソニック・フィルターは可聴帯域外の超低域17Hz以下を12dB/octという急峻な特性でカットし、超低域ノイズの可聴帯域内への悪影響を取り除くことができます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたり、ノイズ（モーター・ゴロなど）がある場合に、このフィルターは大変有効です。



INPUT INPUT FRONT

INPUT——入力端子切替スイッチ

この連動する二つのプッシュボタン・スイッチは右にあるフロント側の入力端子とリア・パネルFの入力端子を切り替えるスイッチで、“REAR”を押した状態でリア・パネルFの入力端子からの信号がアンプに入力され、“FRONT”を押しますと、前面の入力端子から本機へ信号を入力できる便利な機構です。

INPUT FRONT——フロント側・入力端子

入力端子切替スイッチの“FRONT”を押したときに、リア・パネルの入力端子とまったく同じように、信号を入力することができます。

ブリッジ接続にしてご使用になるときは、この入力端子の“LEFT”へ入力してください。



INPUT

INPUT——入力端子

コントロール・センター(プリアンプ)の出力端子とこの端子をシールド・コードで接続してください。定格出力1V以上のコントロール・センターをご使用ください。出力電圧が低いとゲイン不足になることがあります。

Gのブリッジ接続回路 ON/OFF スイッチをONにして“ブリッジ接続回路”に切り替えたときには“LEFT”側入力端子から本機へ入力してください。



BRIDGE CONNECTION

BRIDGE CONNECTION——ブリッジ接続回路ON/OFF
スイッチ

本機を400W(8Ω負荷)出力のモノフォニック・ハイパワー・アンプに切り替えるためのスイッチです。

切り替えるには、スライド・スイッチのストッパーを固定しているビスを外して、スイッチを“ON”にしてください。これでモノフォニック・アンプになります。“ブリッジ接続”について8ページに詳細な説明をしております。

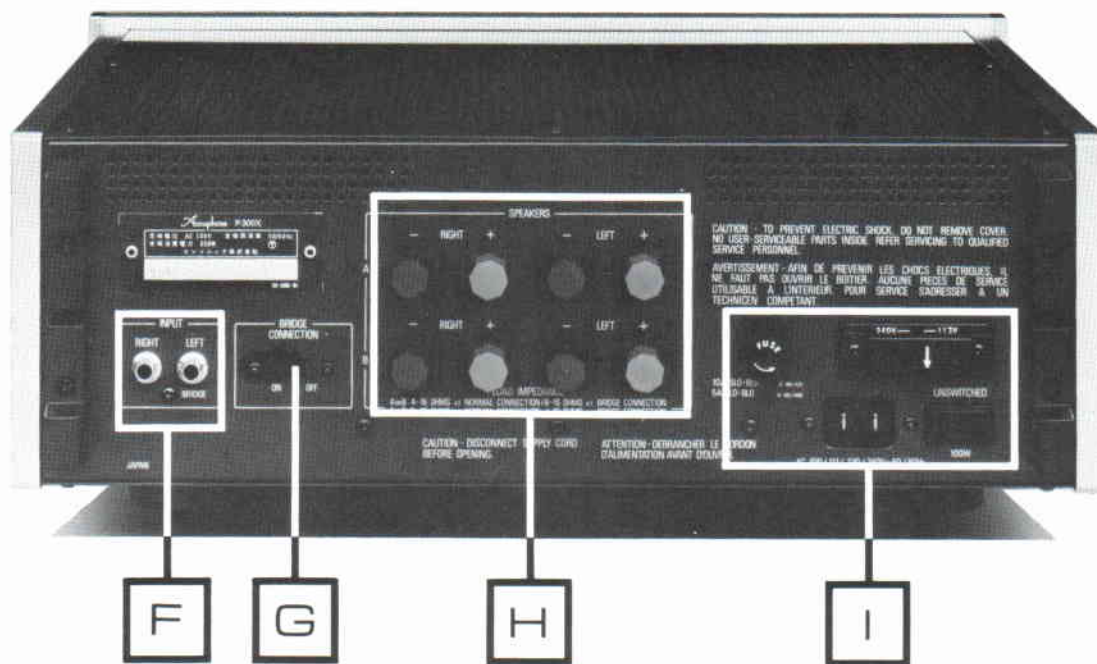


SPEAKERS

SPEAKERS——スピーカー端子

本機を通常のステレオ・アンプとしてご使用になるときは、リア・パネル側“A”、“B”端子に2組のスピーカー、フロント側に1組のスピーカーを接続することができます。それぞれの端子へ接続したスピーカーはフロント・パネルC SPEAKERSスイッチで選択します。スピーカー切替スイッチを“A+B”の位置にして2組のスピーカーを同時に鳴らすとき、また、ブリッジ接続にしてモノフォニック・アンプにしたときなどは、次のように、接続可能なスピーカーのインピーダンス(アンプの負荷インピーダンス)が変わりますのでご注意ください。

《通常のステレオ・アンプとして使用するとき》



■“A”，“B”または“FRONT”を単独で使用

負荷インピーダンス：4～16Ω

■“A+B”で同時に2組のスピーカーを使用

負荷インピーダンス：8～16Ω

《ブリッジ接続にして使用するとき》

■“A”，“B”または“FRONT”を単独で使用

負荷インピーダンス：8～16Ω

■“A+B”で同時に2台のスピーカーを使用

負荷インピーダンス：16Ω

また、ブリッジ接続にしたときには、LEFT(+)がプラス端子、RIGHT(+)がマイナス端子としてスピーカーに接続し、(-)側には何もつながないようにしてください。“ブリッジ接続”について8ページに詳細な説明をしております。



**VOLTAGE SELECTOR PLUG
UNSWITCHED
POWER CORD RECEPTACLE
FUSE**

電源電圧切替プラグ

プラグの矢印が本機へ供給する電源電圧を示しております。もし電圧の異なる地域で使う場合はプラグを固定している金具を外し、プラグを引き抜いて、プラグ頭部の矢印を目的の電圧値に合わせて差し込み、再び金具を取り付け

てください。

UNSWITCHED——電源スイッチに連動しないコンセント

本機の電源コードがACコンセントに接続されている場合、電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器への電源を供給することができます。接続する機器の消費電力が100Wを越えないように注意してください。

AC電源コード受口

本機へ供給するAC電源の受口です。付属のコードを差し込んでください。

ヒューズ

AC電源一次側に入っているヒューズです。ヒューズの交換は、ヒューズ・ホルダーの中央をプラス・ドライバーで矢印の方向へまわせば中のヒューズを交換することができます。

電源ヒューズは電源電圧により定格が変わります。本機のヒューズは100V/117Vのとき、スロー・ブロー(SLOW-BLOW)タイプ10A、220V/240Vのときは、同じタイプの5Aとなっています。ヒューズは特に原因がなくても切れることがあります。電源電圧の変更や、ヒューズが切れて電源が入らなくなったときには、お求めの専門店、または弊社の品質保証課までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

ブリッジ接続

“BRIDGE CONNECTION”のスライド・スイッチをON/OFFするときには、必ず電源スイッチを切ってください

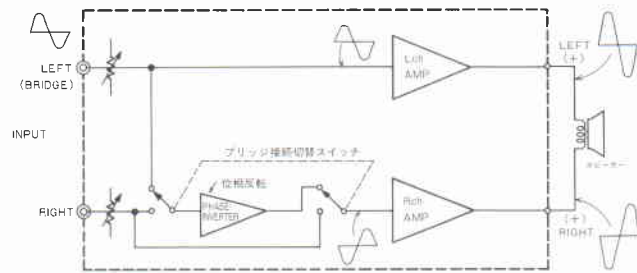
同じ2台のパワー・アンプの入力に同一信号を入れて、出力側のマイナス(-)極同志を接続し、それぞれのプラス(+)極から信号を取り出します。このままの状態では、出力はゼロになってしまいます。そこで入力側で1台のアンプへ入力する信号の位相を反転し、もう1台のアンプへはそのままの信号を入れますと、2台のアンプへは逆位相の信号が入ったことになり、出力にもそのまま逆位相の信号が現われます。その結果、1台のときの2倍の信号電圧が負荷(スピーカー)に加えられることとなります。このように電圧が2倍になりますと電力は4倍、つまり4倍のパワーが得られることとなります。

しかし、現実のアンプでは、回路内の損失や、出力トランジスタの電流容量の制限を受けますので、1台で使用するときの4Ω負荷で出し得る2倍がブリッジ接続をしたときの8Ω負荷の出力になります。

このように2台のパワー・アンプを1台のアンプとして接続することを“ブリッジ接続”と称し、信号の位相処理をする回路が“ブリッジ接続回路”です。ブリッジ接続回路が内蔵されていないアンプでは、この回路のアダプターが必要になります。

■P-300Xのブリッジ接続について

本機はステレオ・パワー・アンプですから2台のパワー・アンプがすでに入っております。したがって、下図のように内蔵されているブリッジ接続回路がスイッチを切り替えるだけで動作し、400W(8Ω負荷)のハイパワー・モノフォニック・アンプになります。



《ブリッジ接続に切り替えたとき》

■負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になる

アンプ1台に対する負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。インピーダンス8Ωのスピーカーを接続したときには、1台あたり4Ωのスピーカーが接続されたときと同じこととなります。

P-300Xをブリッジ接続にしたときには、8Ω以上のイ

ンピーダンスのスピーカーをご使用ください。また、スピーカー切替スイッチを“A+B”にして2台のスピーカーを同時に鳴らすときには、“A+B”ポジションが並列接続になっているために、16Ωよりも低いインピーダンスではアンプにとって過負荷になります。

■増幅度は2倍になりS/Nが減少

スピーカーに加わる電圧は2倍になります。言いかえると、増幅度が2倍になったことと同じで、デシベルで表現しますと6dBアップになります。このためにトータル・ノイズが上昇し、S/Nは減少します。

■ダンピング・ファクターは半分になる

2台のアンプの出力回路が直列に接続されることになり、アンプの出力インピーダンスが2倍になりますので、ダンピング・ファクターは半分になります。しかし、もともとソリッドステート・アンプのダンピング・ファクターは高いので実用上はまったく支障ありません。

《接続方法》

“BRIDGE CONNECTION”のスライド・スイッチを“ON”にしてください。

■入力信号はINPUT端子の“LEFT”へ入れてください。

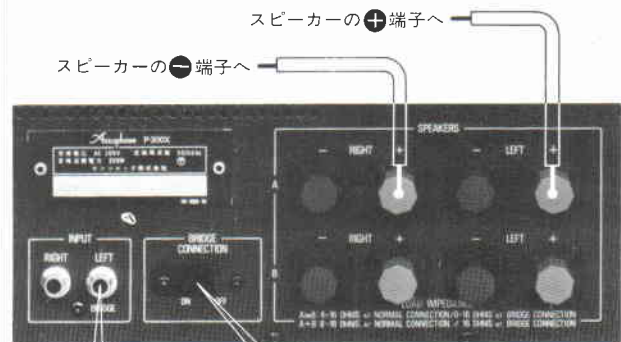
■SPEAKERS端子のLEFT(+)とスピーカーのプラス(+), RIGHT(+)とスピーカーのマイナス(-)端子を接続してください。

(すべてのSPEAKERS端子ともに同じです。)

■SPEAKERS端子の(-)側には何もつながないようにしてください。

ブリッジ接続にしたときのパワー・レベル・メーターの指示については5ページに詳細な説明があります。

P-300Xはモノフォニック・アンプになるため、片チャンネルの接続を示しています。



プリアンプのOUTPUTの
RIGHT LEFT
BRIDGE
端子をLEFTへ入力

スピーカーの+端子へ
スピーカーの-端子へ
スライド・スイッチのストッパーを
片チャンネルをLEFTへ入力
外してスイッチをONにする。

ご注意

■AC電源について

電源電圧が90V以下または110Vを越えている場合は、スライタックなどで規定の100Vにしてください。電源電圧の異なる地域でご使用の場合は7ページの“電源電圧切替プラグ”についての説明をご参照ください。

■パワー・アンプの空気孔はふさがないようにしてください

ハイパワー・アンプはかなりの熱が出ます。回路内を大電流が流れますので温度上昇も相当なものになりますから、アンプのまわりにあけてある空気孔の近くに通風をさまたげるようなものを置いたり、狭い通気の悪い場所へセッティングすることは絶対にさけてください。また、直射日光のあたる場所でのご使用もさけてください。

別売のローズウッド・キャビネットA-8型に入れたときのクーリングについては十分に検討されておりますので、まったく支障はありません。

■本機の上とか下に直接プリアンプやパワー・アンプなどを重ねて使用することはさけてください

冷却効果をさまたげるとともに、高利得のプリアンプのときには電磁誘導を受けてハムを発生したり、チューナーでは不安定な動作の原因になることがあります。

■電源はプリアンプのVOLUMEを下げてから切ってください

電源を切るときには必ずプリアンプのVOLUMEをさげてから切ることを習慣づけましょう。

パワー・アンプに信号を通したままの状態でも電源をOFFにすると、プロテクション回路のリレー接点をいため、接触不良の原因になります。アキュフェーズ製品のパワー・アンプに使用しておりますリレーは、電流容量も大きく厳選したのですが、VOLUMEを下げることにより、リレー接点の状態を常にベスト・コンディションに保てるわけです。パワー・アンプのレベル調整ツマミをその都度下げた必要はありません。

■レコード・プレーヤーなどを操作するときは、必ずプリアンプのVOLUMEを下げてから行なってください

ハイパワー・アンプを使用して、カートリッジをレコード盤面から上げたり下げたりするとき、聴感上それほどの

音圧を感じなくても、スピーカーには超低域の大電流が流れて、スピーカーを破損する場合があります。

必ずプリアンプのVOLUMEを下げてから操作してください。

■入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行なってください

特にRCAタイプのピンプラグ（通常のオーディオ機器に使用されているもの）をジャックから抜き差しするときは、(+)側、(-)側ともに同時に入ったり切れたりせず、(+)側が先に入ったり、残ったりするために一瞬(-)側が浮いた状態になって大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。

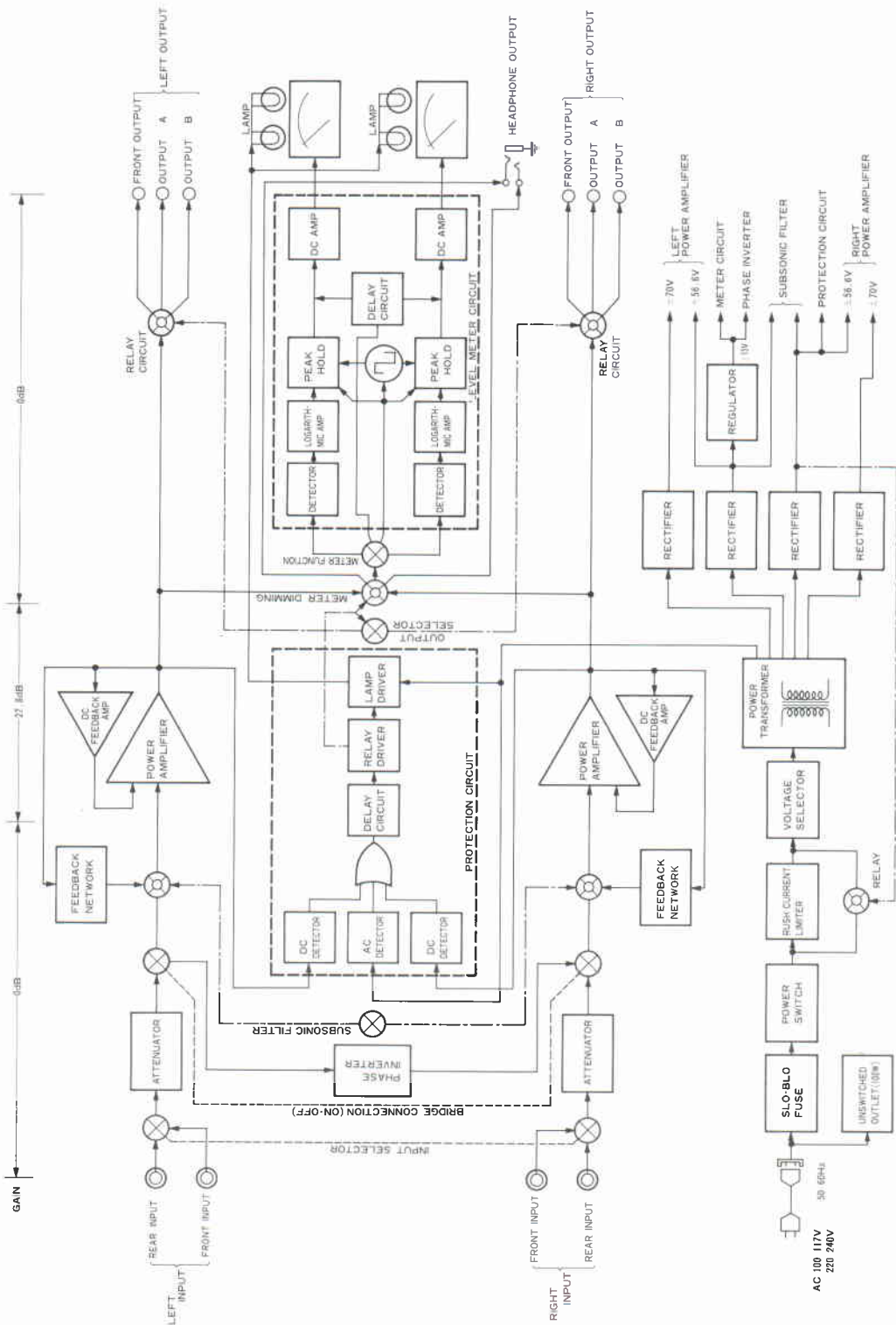
プリアンプやパワー・アンプなどの入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行なってください。

■2台以上のアンプ、スピーカーを切り替えて使用するとき

切替スイッチを使って、2台以上のアンプ、スピーカーなどを切り替えてご使用になる場合は、切替スイッチ内でアース側が共通になっていますとアンプの異常発振を誘発する原因になります。切替スイッチのアース側が共通になっていないことを確認の上でご使用ください。

ブリッジ接続にした場合は、スピーカーの両極は、アンプのマイナス側(シャーシー)に対して常に電位をもっています。このためスピーカーまでの信号ケーブルは両極共に独立した状態でないと、過電流が流れます。したがってスピーカー切替スイッチを使用するときは、両極共に完全に独立して切り替わるタイプのもをご使用ください。共通接続になったスイッチでは過電流が流れ、アンプを破損することがあります。

ブロック・ダイアグラム



保証特性

連続平均出力

NORMAL CONNECTION (両チャンネル同時動作)

200W/ch	4Ω 負荷
150W/ch	8Ω 負荷
75W/ch	16Ω 負荷

BRIDGE CONNECTION (モノフォニック)

400W	8Ω 負荷
200W	16Ω 負荷

20-20,000Hz間, ひずみ0.01%以下

全高調波ひずみ率

NORMAL CONNECTION (両チャンネル同時動作)

0.01%	4Ω 負荷
0.005%	8Ω 負荷
0.005%	16Ω 負荷

BRIDGE CONNECTION (モノフォニック)

0.01%	8Ω 負荷
0.01%	16Ω 負荷

0.25W~定格出力間, 20-20,000Hz間

IMひずみ率 (新IHF)

0.003%

周波数特性

20-20,000Hz +0, -0.2dB

(定格出力時, レベル・コントロール MAX)

0.4-500,000Hz +0, -3.0dB

(出力1W時, レベル・コントロール MAX)

0.4-150,000Hz +0, -3.0dB

(出力1W時, レベル・コントロール -6dB)

ゲイン

27.8dB NORMAL CONNECTION

33.7dB BRIDGE CONNECTION

負荷インピーダンス

4~16Ω NORMAL CONNECTION

8~16Ω BRIDGE CONNECTION

ダンピング・ファクター (新IHF 50Hz)

150 NORMAL CONNECTION

75 BRIDGE CONNECTION

入力感度・入力インピーダンス

NORMAL CONNECTION

1.4V 定格出力 50kΩ

0.11V 新IHF 1W出力 50kΩ

BRIDGE CONNECTION

1.17V 定格出力 50kΩ

0.06V 新IHF 1W出力 50kΩ

S/N (A-補正)

NORMAL CONNECTION

120dB 定格出力にて, 入力ショート

100dB 新IHF, 1W出力

BRIDGE CONNECTION

110dB 定格出力にて, 入力ショート

90dB 新IHF, 1W出力

ステレオ・ヘッドホン

低出力インピーダンス型

サブソニック・フィルター

17Hz -12dB/oct

出力メーター

対数圧縮型 -40dB~+3dB 及び出力直読目盛り
ピーク・ホールド切替付

使用半導体

42Tr, 12FET, 7IC, 61Di

電源及び消費電力

100V, 117V, 220V, 240V 50/60Hz

NORMAL CONNECTION

80W 無入力時

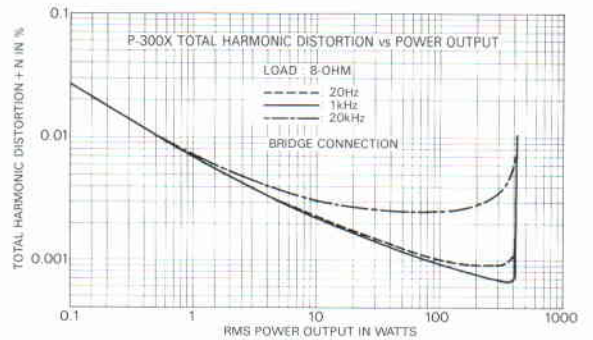
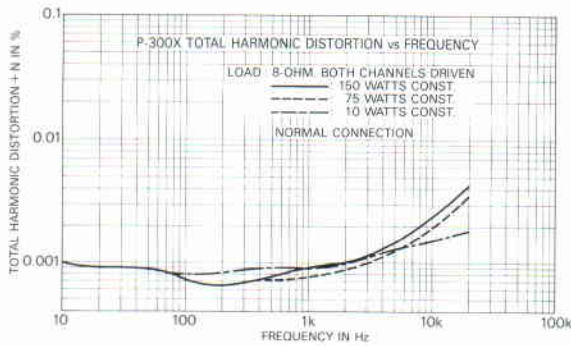
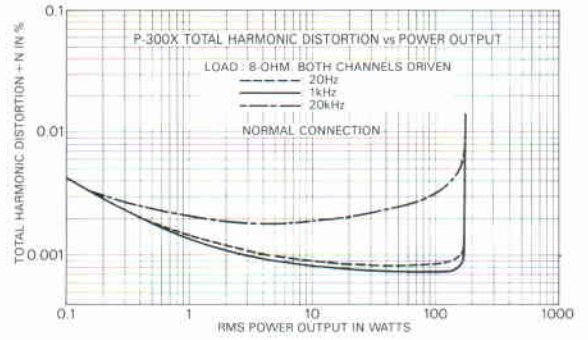
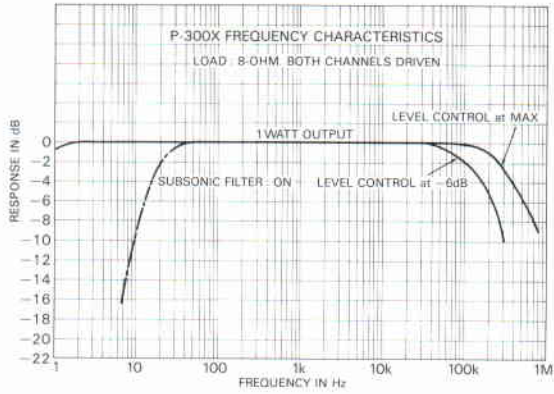
550W 8Ω負荷定格出力時

寸法・重量

幅445mm×高さ160mm(脚含む)×奥行373mm

22.5kg

特性グラフ



STEREO POWER AMPLIFIER P-300X



ACCUPHASE LABORATORY INC.
アキュフェーズ株式会社
横浜市緑区新石川2-14-10
〒227 TEL(045)901-2771(代表)